



岳南都市圏

総合都市交通体系調査報告書

第2回岳南都市圏パーソントリップ調査



平成31年2月

岳南都市圏総合都市交通計画協議会



はじめに

岳南都市圏は、世界遺産富士山の西南麓に位置し、富士市と富士宮市で構成する人口約38万人の都市圏です。

本都市圏では、平成16年度に「第1回岳南都市圏パーソントリップ調査」を実施し、都市圏の人の動きの実態を踏まえた都市交通マスタープランを策定しました。それから10年以上が経過し、この間、富士市と富士川町、富士宮市と芝川町の合併、新東名高速道路の開通、西富士道路の無料化、富士山の世界遺産登録に伴う観光客の増加など、本都市圏の交通を取り巻く環境は大きく変化してきました。加えて、人口減少や少子高齢社会が本格的に到来し、全国的に「コンパクト+ネットワーク」の推進が掲げられ、本都市圏においても集約連携型都市構造の構築と、それに対応した公共交通施策の取組が求められています。さらには自動運転技術などのICT技術の革新が急激に進んでおり、本都市圏の交通施策への活用も期待されます。

このような状況の変化に対応した新たな都市交通マスタープランを策定すべく、平成27年度に「第2回岳南都市圏パーソントリップ調査」を実施したところ、第1回調査に比べ自動車利用の割合が増加する一方で公共交通利用の割合が減少している実態や、中心市街地における人の移動量が減少する実態、高齢者の移動制約に関する実態等が明らかとなりました。

本報告書は、平成27年度から30年度にかけて実施した総合都市交通体系調査の結果の概要を取りまとめたものです。

本調査により策定した今回の都市交通マスタープランは、本都市圏が目指す都市交通像として「富士山のふもと 活発な交流と住みやすさを支える交通ネットワーク」を掲げ、既存道路空間の再編や需要に見合った公共交通の維持と集約連携、新たな技術の活用を図った施策の展開を提案しています。

本マスタープランを関係者が相互に連携して展開することで、本都市圏が目指す都市交通像の実現を図っていきます。

最後に、調査にご協力いただいた住民の皆さま並びに複数年にわたる協議会運営の中で、貴重なご意見、ご尽力を賜りました協議会の委員、幹事及び関係各位に対して心から感謝を申し上げます。

平成31年2月
岳南都市圏総合都市交通計画協議会

目次

1 調査の概要	1
1-1 調査の目的	1
1-2 調査対象地域	1
1-3 調査の流れ	1
1-4 交通実態調査の概要	2
2 岳南都市圏の概要	3
2-1 都市圏構造	3
2-2 岳南都市圏居住者の交通特性	7
3 都市交通の課題	13
3-1 岳南都市圏を取り巻く状況	13
3-2 現況分析結果からみた問題点	18
3-3 将来予測結果からみた問題点	21
3-4 計画課題の整理	25
4 都市交通政策の方向性の検討	27
4-1 都市交通シナリオの比較検討	27
4-2 都市交通政策の大きな方向性	29
5 都市交通マスタープラン	30
5-1 岳南都市圏が目指す都市交通像と基本方針	31
5-2 交通ネットワーク計画	36
5-3 基本方針に基づく戦略・施策	39
5-4 期待される主な効果	53
6 推進体制等	54
6-1 計画の展開に向けた取組	54
6-2 推進体制	54
7 PRの実施	55
7-1 PRの目的	55
7-2 主なPRの内容	55
巻末資料 岳南都市圏総合都市交通計画協議会	56

本調査では、年次の表記は和暦（昭和（S）・平成（H））としていますが、西暦との対応は次のとおりです。
第1回岳南都市圏PT調査 | 平成16年（2004年） 第2回岳南都市圏PT調査 | 平成27年（2015年）
計画目標年次 | 平成47年（2035年）